● かまどの神・かわやの神・出入り口の神 ●

昔から家のいたるところに神が宿ると信じられてきた。人々は、家の中に宿る神にお供え物をして神々の恩恵に感謝し、御札を貼って悪霊を追い払うなど、神の力に頼りながら家や家族の安全を守ってきた。中村家にも、そのような神々が祀られており、暮らしを守ってくれる神々の存在を知ることができる。

■かまどの神「竈三柱大神」

神道におけるかまどの神を竈三柱大神といい、仏教では三宝荒神と呼んだ。昔のかまどには安全装置などなく、家屋も木造であったため、毎日使うかまどの火から家屋を護ってもらうことはとても重要なことだった。竈三柱大神を怒らせると家財をすべて焼き払われるともいわれており、火を扱う場所に祀られた。中村家ではかまどの近くにこの御札を貼り、火から家を守っていた。竈三柱大神とは、奥津日子神、奥津比売命、火産霊を指し、奥津日子神、奥津比売命は竈の神、火産霊は火の神である。

■かわやの神「烏枢沙摩明王（うすさまみょうおう）」

密教におけるかわやの神を烏枢沙摩明王という。かわやは、現世とあの世の境界ともいわれていた。古くから不潔な場所であることから、悪霊や怨霊の出入り口とされてきた。そのため、かわやを烏枢沙摩明王の功徳によって清潔にし、家族の健康や安全を祈った。かわやには排泄物が流され、やがては生命のふるさとである海などの自然に辿り着くことから、新たなる生命の誕生の場とも考えられていた。そのため、かわやを清潔にしておくときれいな子どもが生まれるとも信じられていた。

■家を支える神「大黒天」

中村家には土間と座敷の中心に、つまり家の中心に一本の長い柱が通してある。これが大黒柱である。かつて、家を建てるときには土間と座敷の間の柱に大黒天を祀ったため、大黒柱と呼ばれている。大黒天は台所の神として祀られているが、これは大黒柱が台所にまで通してあることと合致する。